

写真で野々市の魅力を発信 秋の野々市宿を撮る ～着物女性と町家～

10月14日(日)、北国街道の喜多家住宅と郷土資料館を舞台に「秋の野々市宿を撮る ～着物女性と町家～」が開催されました。北国街道の魅力を感じ、発信することでのぎわいの創出につなげることを目指したこの事業には22人が参加。会場にはモデルとして、鮮やかな着物を身にまとった5人の女性が花を添えました。当日は天候にも恵まれて絶好の撮影日和となり、歴史ある建物を会場に、参加者は持参したカメラやスマートフォンで着物女性の姿を撮影。また、参加者が撮影した写真のコンテストも開かれ、大賞には藤丸さん(津幡町)の作品が選ばれました。入賞した作品は今後、観光ポスターなどに使用する予定です。

参加者からは「笑顔が絶えないイベントで、地域活性と町並みのPRになると思う」「写真を撮りに野々市を散策したくなった」と、今回のイベントを評価する声が聞かれました。



秋風 (藤丸さん)



町家の娘 (辰巳善幸さん)



あ！ここだ (松田裕さん)



喜多家住宅と着物の女性たち (川越一弘さん)



お出かけ (千代清宏さん)



のっぴもこんにちば！ (小松靖典さん)

相手への思いやりを忘れずに パープルリボンキャンペーン 2018

県では女性に対する暴力をなくす運動として、11月を「いしかわパープルリボンキャンペーン」期間と位置付け、自治体と各団体が協力して啓発活動を行っています。市内では男女共同参画推進員の皆さんがイオン御経塚店・野々市南店で啓発物品を配布したほか、情報交流館カメリアにパープルリボンツリーを設置。ツリーには来館者が書いたカードが吊るされ、「ひとりひとりを大切に」「みんなが仲良くやさしくなりますように」など暴力の根絶を願う言葉が並びました。



12月3日～17日(月)には情報交流館カメリアでパネル展を行います。

ペットボトルキャップが命を救う 野々市中学校生徒がキャップを寄贈

10月15日(月)、野々市中学校の生徒会役員7人が市社会福祉協議会を訪れ、5月から生徒が協力して集めたペットボトルキャップを寄贈しました。当初の目標は60キログラムでしたが、標語を作って全校生徒に呼びかけたこともあり、目標を大きく上回る220キログラム(約9万5千個)のキャップを回収。キャップはNPO法人を通して開発途上国の子どもたちのためのワクチン支援に利用され、今回集まったキャップで約110人分のポリオワクチンが用意できる見込みです。



全校生徒が一丸となってキャップの回収に取り組みました。

Focus

まちの話題
皆さんの周りの楽しい話題やイベントなどの情報を教えてください。
市民協働課 ☎227-6056

愛と和でふれあう生涯学習の集いのいちマナビフェスタ 2018

10月27日(土)～11月4日(日)、文化会館フォルテを中心とした4つの会場で「のいちマナビフェスタ 2018」が開催されました。期間中は子どもフェスティバルや音楽祭、芸能民謡祭、作品展示などを実施し、市内の各サークルや団体が日々の活動の成果を発表。会場に足を運んだ多くの人は発表の舞台や作品を感心しながら見つめていました。また、絵手紙制作やちぎり絵体験など、ものづくりを体験できるワークショップも多数実施され、子どもからお年寄りまで多くの人が学んで遊んで楽しみ、文化の秋を満喫したまつりとなりました。



第34回 子どもかべ新聞コンクール展

市長賞	粟田6丁目 本町1丁目若葉
議長賞	下林、あやめ
教育長賞	本町六丁目、位川
中央公民館長賞	新庄3丁目、清金
ロータリークラブ会長賞	扇が丘、徳用町
北国新聞社長賞	新庄5・6丁目、粟田1丁目
市子連会長賞	太平寺2丁目、粟田4丁目

第8回 市菊花表彰 (敬称略)

市長賞	「七本立の部」	最優秀	松野 勝夫
市議会議員賞	「三本立の部」	最優秀	北村 成人
市商工会会長賞	「ダルマの部」	最優秀	北村 成人
市文化協会会長賞	「ドームの部」	最優秀	内村 榮一
北国新聞社長賞	「バラエティーの部」	最優秀	馬淵 昭夫
平成30年度名人賞			松野 勝夫
新人賞			内村 榮一

